

介護職員の高齢化も進み、多くの従事者が定年退職を目前にしています。新規従事者、特に若い世代の担い手が必要です。行政、施設、介護士と一丸となり、知恵を出し合って、様々な視点から介護人材確保に取り組んでいただきたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、阿部議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで、暫時休憩いたします。再開を11時5分といたします。

〈午前10時52分 休憩〉

〈午前11時05分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、和泉克彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。〔13番 和泉克彦君登壇〕

○13番（和泉克彦君）

おはようございます。和泉克彦でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、大糸線の存続に係る経過と課題等と糸魚川地域の鉄道を利用した地域観光の連携等について。

(1) 今年は大糸線全通65周年の年に当たります。年初に、JR西日本は、不採算のローカル線に関しての見直しに意欲を示し、さらに、大糸線南小谷・糸魚川駅間に関しても、「大糸線沿線の活性化及び持続可能な路線としての方策検討の開始について」ということを示したにもかかわらず、「廃止も視野に入れ検討している」とした一部報道に対して、米田市長が抗議されたことは記憶に新しいところです。新年度になり、大糸線活性化協議会と大糸線利用促進輸送強化期成同盟会とで総会が行われました。いずれも、大糸線の存続への取組が中心テーマでしたが、再度、行政としての今後の方向性について伺います。

(2) 大糸線沿線の関係自治体をはじめとして、各団体、組織等は、一様に「存続」という言葉を使います。米田市長は、活性化協議会において、65周年の記念イベントや北陸新幹線の敦賀延伸に言及され、これらが糸魚川活性化の要素と捉えておられます。それだけではなく、沿線住民の生活路線、また、沿線の自然を取り入れた観光路線としての存続の道を模索していくことも常々おっしゃっています。また、今月2日の市長の定例記者懇談会において、大

糸線存続に向けた利用促進に意欲を示されたとの報道もあります。そこで、行政としては、今後、イベント等での集客のみならず、恒常的な利用や大糸線応援隊員の参加等について、どのような方策を検討されているのか、伺います。

- (3) 「国鉄形観光急行」が、直江津・市振間での折り返し運行により、今なお多数の来訪者があるという現状を踏まえ、3月定例会の一般質問で私が行った、糸魚川ジオステーションジオパルにある鉄道の資料等を、市振駅で展示するなど、さらなる有効活用についての進捗状況等を伺います。

2、防災・避難訓練の現状と課題と防災意識の啓発について。

- (1) 当市において、災害予防と災害発生時の応急対策、復興対策などの総合的な基本指針となる「糸魚川市地域防災計画」が策定されています。この計画は、当市全域の保全を図り、各種災害から市民の生命と身体、財産を守るため、行政と市民、事業者などが一体となって、それぞれの持つ能力を発揮し、相互に連携しながら地域防災力を高めることを目指すものというたわれています。これまで同様に、今年度も、防災意識の向上を目指し、防災・避難訓練等が行われます。この訓練等を通して、緊急非常時の経験をすることは重要だと思いますが、市民の方々の防災意識の現状と課題について伺います。
- (2) 日頃から防災意識を持ち、地域の防災・避難訓練等に参加することは、自分自身を守ることにつながり、大切なことです。しかし、その訓練に慣れてしまい、緊張感のないものになっていないかが懸念されます。このようなことを踏まえて、従来の防災・避難訓練に加えて「サバイバル防災・避難訓練」の計画・実施をお考えか、伺います。
- (3) 教育現場においても、年間行事計画の中に、避難訓練が盛り込まれています。学校での避難訓練は、火災、地震に加えて、不審者対策の訓練がなされていますが、一連の流れが、ある意味マニュアル化されていて、「何のための訓練なのか」ということも感じられることがあるかと思えます。そこで、改めて訓練の基本とともに、想定外の状況を踏まえた訓練も教育現場には必要かと思えますが、いかがでしょうか、伺います。

3、G I G Aスクール構想の現状と課題について。

- (1) 文部科学省が2019年度に打ち出し、2021年度に本格的にスタートしたG I G Aスクール構想とは、子供1人に1台のパソコンやタブレット端末を貸与するほか、高速大容量の通信ネットワークなどの学校ICT環境を整備・活用することで、多様な子供たち一人一人にとって最適な学びと協働的な学びをともに実現して、教育の質を高めようとする構想のことです。当初は2023年度までの5年をかける計画でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、学校は全国的に臨時休校に見舞われ、オンライン学習へのニーズが高まりました。このため端末や通信環境の整備が一気に進み、2021年度に本格的にスタートしたという前倒しの経緯があります。当市においても、第3次総合計画の初年度となる本年、3つの重点分野の一つに「教育」を位置づけています。「学校ICT環境推進事業」として、支援員4人を配置し、市内の19の小中学校と特別支援学校で授業をサポートすることになっています。このG I G Aスクール構想の当市における現状について伺います。
- (2) このG I G Aスクール構想の推進、実施において、メリットとデメリットがあると考えます。メリットについては、コロナ禍でのオンライン授業や、通常の授業においては、児童生

徒の意見集約や共有に活用され、従来は発言の機会が積極的な子供たちに偏りがちなことが、授業支援アプリ等により全員の意見を集約・共有することができるようになり、子供たち同士のやり取り、考えを深めるために役立っているとのこと。一方、デメリットについては、学校、家庭において、少なからず起こり得るものであると思います。当市におけるデメリットの現状と課題について伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

和泉議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、沿線自治体において活性化に向けた様々な事業を行っており、持続可能な路線となるよう、引き続き連携して取り組んでまいります。

2点目につきましては、通勤・通学の定期券購入助成や大糸線を利用したイベント助成等に加え、大糸線応援隊からは、イベントや活性化に向けた様々なアイデアと利用促進に関わっていただきたいと考えております。

3点目につきましては、現在、観光協会と連携し、市振駅における展示スペースの整備と管理方法などについて、えちごトキめき鉄道株式会社と協議を進めているところであります。

2番目の1点目につきましては、総合計画の市民アンケート、防災危機管理の充実における今後の重要度で、重要・ある程度重要と回答した割合が87.8%となっており、防災への関心の高さがうかがえます。

自助・共助の意識を持ち、市民一人一人が自分ごととして、個人や家庭、地域でできる防災対策を考え、備えていくことが重要であると捉えております。

2点目につきましては、まずは隣近所の声かけによります適切な避難、自主的な避難所運営など、継続して訓練等が行われるよう、地区へ情報提供や活動支援を行い、地域防災力の向上に努めております。

3点目につきましては、学校では、消防訓練計画に基づき、年2回以上避難訓練を行っており、より実践的な訓練となるよう学校の実情に応じて、工夫して取り組んでおります。

3番目のご質問におきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

和泉議員のご質問にお答えいたします。

3番目の1点目につきましては、今年度、特別教室分の大型提示装置を整備し、GIGAスクー

ル構想に係る環境整備を完了する予定であります。今後は、ソフト面のさらなる充実に向けて、取り組んでまいります。

2点目につきましては、当市では、タブレット端末の家庭への持ち帰りが少しずつ進んでおりますが、学習目的以外の使用等が考えられることから、端末を扱う際のルール等について、引き続き指導をしてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

それでは、2回目の質問をしたいと思います。

1番目の大糸線関連の質問ですが、大糸線を取り巻く状況について、市民や大糸線応援隊員、あるいは鉄道ファンからは、市のほうに、それぞれどのような声が届いているのか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、それぞれの声で市民の声ということで、先般、私どもの職員が、小滝駅、小滝のほうに向きまして、集落内を運行しております乗合いタクシーと、それから小滝駅で大糸線に乗って、それで乗り継いで利用されている方のご意見を直接聞き取りをしてみました。皆さん、異口同音に市街地にあるスーパーや病院に行くためには、なくてはならない交通手段なので、何とか現状を維持してもらえんかというような切実な声をお聴かせいただいたところでございます。

一方、鉄道ファンとか応援隊の皆様からも、ご意見募集して、いろんな意見を頂いておまして、企画列車の運行ですとか企画切符の販売、あともうちょっと沿線に魅力がたくさんあるので、そことちゃんと連携させたお客様の増加を目指すような取組をしてはどうかとか。あと隊員同士の大糸線のファンの、隊員同士の交流事業などもやってはどうかというような、こちらは今度熱い声というものを聴かせていただいているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

前回の一般質問でも、その市民の声とか応援隊の声、あるいは鉄道ファンの声をより迅速に発信してはどうかというふうにお話ししたと記憶しておりますが、現状として、私も応援隊に入っていますけど、メルマガで地域の景色とか、あるいは鉄道ファンの声とか、そういうのが届くんですけども、再度、そういういろいろな声を積極的に発信していくべきだというふうに思いますが、それについて、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ご指摘のとおりだと思います。地元の利用者の声というのは、人数的には少ないかもしれないですけど、ちゃんとしっかり受け止めなきゃいけない声ですし、応援隊の皆様から寄せていただいるご提案については、SNSとかいろいろな手段ございますので、これは広く発信しまして、私どもも応援隊、応援隊同士の何といいますか意識の共有というようなものも図りまして、できればとか目指したいのは、応援隊の皆さんからも大糸線の利用促進に関わっていただくというような、そういうところを目指すためにも、そういう情報発信というのは、その在り方も含めて、幅広く探っていきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

今ほど聞かせていただいた、特に市民の声、小滝駅で声をお聴きしたということですが、少数の意見ではありますが、そういう方たちの足を奪ってしまうということは、結局は取り残すことにつながりますので、そういうところも十分考えて、お願いしたいというふうに思います。

1番の問題点は、恒常的な利用になります。まず乗ってもらうということがベースになります。市長答弁にもありました定期券の購入助成、これに併せて、大糸線を利用して、沿線の観光施設やスポットへ誘致すると。そういう取組をさらに積極的に行うべきだというふうに考えます。

糸魚川市内の沿線に限定してみると、例えば頸城大野駅周辺で、駒ヶ岳とか雨飾山等、大糸線の列車を入れてもいいですけども、そういうような写真スポットを紹介するとか、根知駅では、ブラタモリでも紹介されたように、根知駅からフォッサマグナパーク、渡辺酒造さん、そして根知駅へ戻ってくる。こういうフレイル予防も兼ねてウォーキングコースを指定、推奨して、道路のコースにサイクリングコースのような矢羽根の表示ですかね。道標を設置するとか、小滝駅からは、高浪の池のシャトルバスの運行、平岩駅については、駅周辺の温泉施設、あるいは蓮華温泉、木地屋の里、それと白馬岳などの紹介ということで、各駅周辺の散策のモデルコースをまず提案するというのを考案して、推奨して、市民の方を中心に、まず改めて市民の方に糸魚川のよさ、すばらしさに気づいてもらうと。それを糸魚川市民の方々に、外に積極的に発信してもらうという、そういうことはいかがと考えますが、お考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今ほどご提言いただきました小滝の高浪の池や根知のフォッサマグナパーク、シーサイドバレースキー場など、大糸線沿線の観光施設で行われますイベントやツアーなどにおいては、小滝駅、平岩駅などの最寄りの駅からシャトルバスの活用を推奨するなど、大糸線を利用してもらうような取組を行うとともに、助成につきましても検討させていただきたいというふうに思っております。

また、関係団体と連携いたしまして、観光スポットや鉄道の魅力をまとめましたマップの作成、利用者に喜ばれますキャンペーン等を企画しまして、鉄道ファンのみならず、糸魚川市民に対する魅力の発進にも努めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋産業部長。〔産業部長 大嶋利幸君登壇〕

○産業部長（大嶋利幸君）

補足して、答弁させていただきます。

糸魚川・南小谷間という限定的な考え方もあるんですが、やっぱり松本・糸魚川間という、より長い距離での考え方もございますので、北アルプス日本海広域観光連携会議等の団体も含めまして、より幅広い活用方法について考える必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

今、大嶋産業部長がお答えいただきましたが、糸魚川・南小谷間だけでなく、やっぱり糸魚川・松本間ということをおもも考えております。当市は、大糸線沿線の自治体として、また活性化協議会、利用促進輸送強化期成同盟会のメンバーであります。JR西日本やJR東日本へのさらなる働きかけが必要かと思えます。

今、産業部長がおっしゃった糸魚川・南小谷だけじゃなくて、松本、まずそこに限って言えば、1日フリー乗車券の議論を進めていただいたり、あるいは糸魚川・松本、長野、上越妙高、糸魚川ということで、JRの路線をぐるっと周遊してくるその周遊券というような、お得な切符を協議会、あるいは期成同盟会に提案していただいて、これらの切符を使って観光誘致も考えられるというふうに思いますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

和泉議員と同じようなご提案というものを応援隊の方からも頂いてるところでございます。その方は、3月から5月にかけて、ご本人自ら、いつも1日乗れる限り大糸線に乗って、実際に乗降客の数を調査して、その分析結果からそういうフリー券の有効性というものを私どもに提案をいただいております。糸魚川から松本で、一つの大糸線ということでございますので、沿線の8市町村と経済団体、観光団体で構成する振興部会、ここにはJR西もオブザーバーで入って

おりますし、必要であれば東にも声をかけるという、今スキームになっておりますので、その議論を上げて、検討してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

今お答えいただいた、そういういろんな方の声を、ぜひ積極的に出していただいて、建設的な話し合いをしていただければというふうに思います。

昨年11月3日にえちごトキめきリゾート雪月花が、大糸線に乗り入れ、運行しました。市民や鉄道ファンが大勢集まり、糸魚川駅ホームで盛況のうちに出発式が執り行われました。このようなイベントを1つ取り上げても、確実に全国から鉄道ファンが、そのイベントを目掛けて集まります。これは間違いありません。

そこで、同じJR西日本が所有している城端線と氷見線を走っている、これ週末運行しているんですが、走るアートギャラリー城端線・氷見線観光列車べるもんたという、これはテレビでも放映されていて、かなり特徴のある、そういう列車ではありますが、これ同じJR西日本の大糸線に乗り入れるなど、そういう働きかけをしてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

過去3回、雪月花、えちごトキめき鉄道の雪月花は、大糸線の乗り入れというものを実現しております。

ただ、やはり事業者間、JR西、東、えちごトキめき鉄道という調整ですとか、通常ダイヤの中に入れ込むということで代行バスの運行とか、その実現というのは、かなりのエネルギーというか、汗とコストというのも要するというのも事実でございます。

ただ、観光列車の乗り入れというのは、大変大きなインパクト、話題性というのがありまして、それ自体がすごく魅力的に、大糸線をメジャーにするという役割というのは大きいものだと思います。

実は、昨年度より大糸線のほうの活性化協議会のほうなんですけど、今年度の65周年を迎える大糸線につきまして、何か少し企画列車みたいのを検討できないかということで、今調整を進めているところでございます。まだ詳細をお伝えできるレベルではないのですが、少し調整しているところです。「べるもんた」の場合、その間にまた、プラス、あいの風とやま鉄道という、もう一社が入りますので、もう一段、正直ハードルが上がってしまうのかなというふうに思われますけど、大糸線をば活性化につなぐ取組ということで、これを今度、振興部会の議論にするかどうかというところの検討も含めて考えてみたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

大糸線の、より積極的な利用を促進する取組をお願いしたいと思います。

次に、3点目の市振駅の有効活用ですが、地元で手前みそになってしまって申し訳ないですけども、これも3月に質問させていただきました。その進捗状況について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

市振駅舎は、えちごトキめき鉄道の財産であるため、展示に向けての条件整理をえちごトキめき鉄道社内で検討いただいております。その検討結果を受けまして、糸魚川市ではどのような展示スペースが整備可能なのか、どのようなセキュリティシステム等を維持管理、また運営方法があるのか検討させていただきまして、整備等の計画を今後立てていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

週末運行される観光急行ですが、この観光急行は、市振地区の住民の皆さんも、それによるにぎわいを感じていまして、ご自分でその様子を撮影される方もいらっしゃいます。

私も地元の住民の一人として、いろいろな働きかけをしていますが、地元の方々は、そのにぎわいとどのように関わりを持っていいのか戸惑いもあるようです。ほぼ毎週のように数十名、イベントなどが絡むときは、あの市振駅に50名、100名という鉄道ファンを中心とした方々が訪れます。そのイベントがないときであっても、リピーターもかなりいらっしゃいます。これは県内よりも県外の方が、あの県境の、要するに駅ノートにも書いてある何もない市振駅に、何回も足を運ぶということは、これはやっぱり観光振興のきっかけづくりというか、これを何か手がかりとして糸魚川を盛り上げていく、そういうものになるのではないかというふうに常々考えております。

幸い、観光急行は、今年の9月までの運行日が、もう既に発表されています。昨年7月4日に運行開始で1周年を迎えます。このような状況を踏まえて、市振もまだ盛り上がり欠ける状況ではありますが、行政がそういうちょっと戸惑いを、どう関わっていいのか戸惑っているようなその住民に対して、地区民と来訪者との橋渡し役といいますか、そういうようなもので活動の啓発とか、活動を始めるきっかけづくりに関わることができないものかと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

観光急行については、昨年7月から運行を開始して、えちごトキめき鉄道の資料によりますと、2万3,000人ほどの利用があった。また、1日にならずと200人ほどが乗車されているということです。

その中で、市内の各駅で長時間止まる場所があるわけですが、特に市振駅については、20分程度止まるということで、そこに多くの方がおられるものですから、今ご提案のあった、例えば展示ですとか、市振駅で何かできるかどうか、そういったものは、やっぱりしっかり検討していく必要があるというふうに思っています。そういった中で、地元の皆さんとの調整ということで、今ご提案ありましたけども、市のほうでも地元の皆さんと何か話合いをする機会を設けて、何かできないか探してみたいというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

糸魚川の豊かな自然、そのすばらしさを感じながら私たちは生活しているんですけども、えてして、それが当たり前ようになっていて、県外から、あるいは県内からおいでになる方が感じている、そのすばらしさに慣れっこになってるような、そういう状況もあるかと思えます。これまでも糸魚川の魅力を県内外に発信されてる方もいますし、そういう方々と手を携えて、糸魚川を盛り上げていく必要があるかというふうに思います。

これは、ある新聞の記事で読んだことですが、北海道の中央部に旭川市というのがあります。それに隣接する東川町というのがありますが、人口、今8,000人ぐらいでしょうかね。ピークは1950年代の1万人程度だったんですが、ここもやはり人口減という流れに乗ってしまって、一番少ないときは7,063人、これは1994年の3月末ですかね。それから2020年の3月末までに1,400人、人口が増えてます。

この町の取組は何かというと、やはり東川町が位置している地理的な条件があって、大雪山国立公園内に位置してます。そこで、町の取組としてどういうことをしたかということ、要するに写真写りのいい町ということで、そういう政策を掲げ、条例も制定してあります。要するに、最近言ってる映えでしょうかね。写真写りのよい町として、まちおこしを取り組んだその成果が、27年間で、微増ではありますが人口増につながってるという、そういう取組もあります。非常に興味深い政策だと思いますので、糸魚川市もそれを参考にして、人口増を考えてみてもいいかなというふうに思います。

次に、2番目の防災避難訓練についてです。

避難訓練、日常的に行われるのは非常に大事なことですし、糸魚川市民の皆さんの防災意識が高いということは、87.8%という数字で理解できました。

ただ、避難所に移動するにしても、その避難所の中に入れないという方もいらっしゃると思いますが、そういう方への対応は、どういうふうに対応されてるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

避難所へ入れない方の対応でございますけども、市では、まず安全な避難所・避難場所を確保させていただきます。その中で避難所が満杯になったりだとか、そういったときには次の避難所というのも開設いたしますが、コロナ禍以降、分散避難というものもお伝えさせていただいております。そんな中で、日頃からハザードマップ等をご確認いただいた中で、自宅のリスク、また周辺地区のリスク等々を日頃から考えていただきまして、そのような対応をしていただきたいというふうに考えております。

また、避難所が多くなれば、当然、市の職員では足りなくなりますので、そういったところも地区の皆さん、また消防団からご協力いただく対応をお願いしているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

昨今の世界情勢を考えたときに、これは例えばですけども、ミサイルが飛んでくるニュースが度々報道されますよね。これが排他的経済水域の外だからとか内だからということではなくて、もう仮に排他的経済水域とか、領海を超えて我が国の領土、つまり私たちが日常生活を営んでいる、そこに落ちるおそれも最近は感じてしまうんですね。そういうときに通常的な避難訓練というのは、避難所ありきで避難していますけど、そういうような被害を、攻撃を受けたときに、避難所がない場合にそういう観点での避難訓練ということも実際に経験しておく必要があるかと思いますが、その点についていかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

今、議員からご意見いただいた内容につきましては、非常にハードルが高い点だと思っております、ただこのような世界情勢を見ておりますと、決して人ごとではないといったところで、ただ、市内の中でも開設できる避難所というのものもあるかと思っておりますので、そういったものを市といたしましては、ご用意いたしまして、場合によっては広域的な避難、市外への避難といったようなことにもなるかと思っておりますので、その辺は研究をさせていただきます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

学校現場においても避難訓練が恒常的に行われておりますが、やはり基礎・基本を身につけながらということもありますが、今ほど全体的な大きな枠での避難訓練の話をさせていただきましたけれども、学校現場においては、予期せぬ訓練とか、サバイバル的なそういう要素を取り入れた訓練というものは、行われているのかどうか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

学校現場における避難訓練で、基礎・基本を大切にしております。その上に立ちまして、予期せぬ例といたしまして休み時間、教師のいないような場で予告なしに訓練を行ったりすることがございます。学校の実情に応じて行っていただいております。

また、特色のあるサバイバル的な部分につきまして、取組といたしましては、根知小学校等で防災キャンプという形で、毎年いろんな要素を、防災的な要素を取り入れた取組を子供、また親子で行っているというふうな報告を頂いておりますし、昨年、青海中学校で災害の際の中学生の力も取り入れた試みということで段ボールベッド、避難所における段ボールベッドの組立て等を親子活動で取り入れて、実際に中学生が学校で段ボールベッドを使って泊まったというふうな事例も聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

最近、やはり想定外のことが起こるわけですが、そういうようなことも念頭に置いた防災意識のさらなる醸成と緊急時の対応の仕方について、どんどん市民のほうに発信していただきたいというふうに思います。

それでは、3つ目のG I G Aスクール構想についてです。

これはメリットは否定するものではないんですけども、必ずメリットと二律背反で、デメリットが必ず何事にもあるものです。やはり懸念されるのが、デメリットです。早急に前倒しでG I G Aスクール構想が導入されたわけですが、それがもたらすデメリット、学校現場におけるデメリットをお聞かせ願いたいと思うんですが、4つほどお聞きします。

1つ目は、SNSの使用で問題となっているいじめがありますよね。そういうようなものが、タブレットを使用することによって生じていないのか、現状を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

タブレットの使用は、昨年度から子供たちしておりますが、そういったものに関連したいじめの例は、数例報告されて、昨年度ですが数例報告されております。タブレットを使用したというところで、教師の目から見えにくいいじめでもありますので、そういったタブレットのチェック体制、それから情報モラル教育を併せて行いながら、そういったものの早期発見、早期対応に向けて、取り組んでいただいております。

いずれにしましても、いじめは相談しやすい体制、そういった環境づくりが大切になりますので、そういったものと併せて取り組んでいく必要があると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

2点目ですが、タブレットなどのデジタル機器を使用することに戸惑いを感じる先生方もおられるのではないかと思います。今年度からICT支援員4名を配置するわけですが、その4名で十分なケアができるのかどうか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

ICT支援員につきましては、昨年度から4名体制として取り組ませていただいております。各学校に、週に1回程度訪問いたしまして、タブレットの活用方法をアドバイスさせていただいたり、校内研修の手伝いをしたり、そういった活動を通して苦手な先生方も含めたニーズに応えるようにしてきております。

また、コールセンター的に電話での対応、相談にも対応するようにしておりますし、学校現場の誰でも見れる校務支援システムがあるんですけども、そちらの掲示板というところがあるんですけども、そちらに支援員の方から各学校、その学校でのすばらしい取組等が、1つの学校であった場合には、全部の市内の学校に見ていただけるように、そういったいい取組を広めながら活用していただくようにしているところがございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

3つ目としまして、タブレットを使用することによって、子供たちが授業などでの書くことの手が減ってくると思われまいます。それによって、漢字などの文字の習得が遅れるという懸念はないでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

タブレットですが、常に、常時使用しているわけではなく、教科や単元によって使用の頻度も違ってくると思います。

ただ、議員おっしゃるように、そういった書くことによる活動、書くことによって自分の考えを深めたり、それから漢字等の書き取りの学習というのは、欠かせないものであると考えます。いろんな部分で、書く活動は大きく減ったというところはないんですが、併せて、この機会に書くこと、書く指導の大切さも指導していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

最後4点目ですが、授業、あるいは自宅に持ち帰るタブレットの使用によって、子供たちの視力の低下が、常に報道されています。糸魚川市においては、まだ1年ほどの経過しか見ていませんが、市内において、そのような報告があるのか。また、子供たちの健康被害について、どのように対応されてるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

議員がおっしゃるとおり、電子機器の影響による子供たちの視力の低下を含めた健康被害、そういったものは、全国的にも報告されておりますし、糸魚川市でも同様と考えております。

ただ、タブレットの導入は始まったばかりであり、タブレットが直接的な原因となってというふうな視力の低下、健康被害は今のところ報告されておられません。タブレットやゲーム機、家庭でのメディアの接触時間、そういったものが増えることによる健康被害が大変心配されます。今後も、そういったタブレットの使用を含めたメディアのルールづくり、そういったものを学校と共に進めていきたいと思っております。

昨年、市で行った教育懇談会というものを行いましたが、そちらでメディアの問題ということで、病院の先生方、田中篤先生からこういった体に対する影響をお話しいただいて、保護者と共に周知を図りました。今年度も6月にメディアの利活用ということで、大学の先生をお呼びして、保護者の皆さんとそういったルールづくり、メディアのルールづくりについて一緒に考えていく機会を設けております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

和泉議員。

○13番（和泉克彦君）

タブレット端末導入で、いろいろなデメリットを確認させていただきました。便利であることは便利なんですけども、やはりそのデメリットもケアできるような体制をお願いしたいと思います。

最後になりますけど、コロナ禍で一気に促進されたGIGAスクール構想ですが、糸魚川市では、タブレットの使用により、どのような教育を実現しようとする構想があるのかについて、今後も経過を見守っていきたいというふうに考えています。

これは糸魚川市での事例ではありませんが、全国の事例として、小学校では体育の授業において、跳び箱を跳ぶ、その姿勢を撮影して、タブレットで撮ったものを確認したりとか、図工の授業で、外で写生するのではなくて、その代わりに写真を撮影してきて、その写真を見て、スケッチしたりと。コロナ禍においては、一見よさように思える、そういうことがあります。やっぱり教育というのは、本物に触れるということが、教育のみならずそうなんですけども、そういうことがタブレットという媒体を通じて確認するような、そういう状況になっているとのことです。

また、保護者とのやり取りについても、これまで連絡帳とか、あるいは電話で行っていた欠席の連絡が、スマートフォンのアプリなどで済むようになる。直接、担任の先生と保護者との会話が行われていない。そういうような状況があったりとか、あるいは授業参観も、学校には、コロナ禍ですから致し方ないと思うんですけど、家からオンラインで、オンライン画像で教室等での子供たちの様子を見るというような、そういうことを行っているようです。

確かに、教育現場において、デジタル化においては、非常に先生方の負担を軽減するなど、たくさん利点がありますけれども、使い方を一歩間違えれば人間関係を希薄にってしまうという、あるいは人と人の距離が離される、そういう流れをつくってしまう懸念があります。幸い、先ほどの質問で、本市では、タブレットの使用については、バランスを考慮してとの答弁を頂いておりますので、ほっとしているところであります。やはりいいところと悪いところを併せ持っているもの、世の中に存在するものは、みんなそうですので、そういうよくないところを補完するような、そういう形での教育をお願いしたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、和泉議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで、午後1時まで暫時休憩といたします。

〈午前11時55分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉